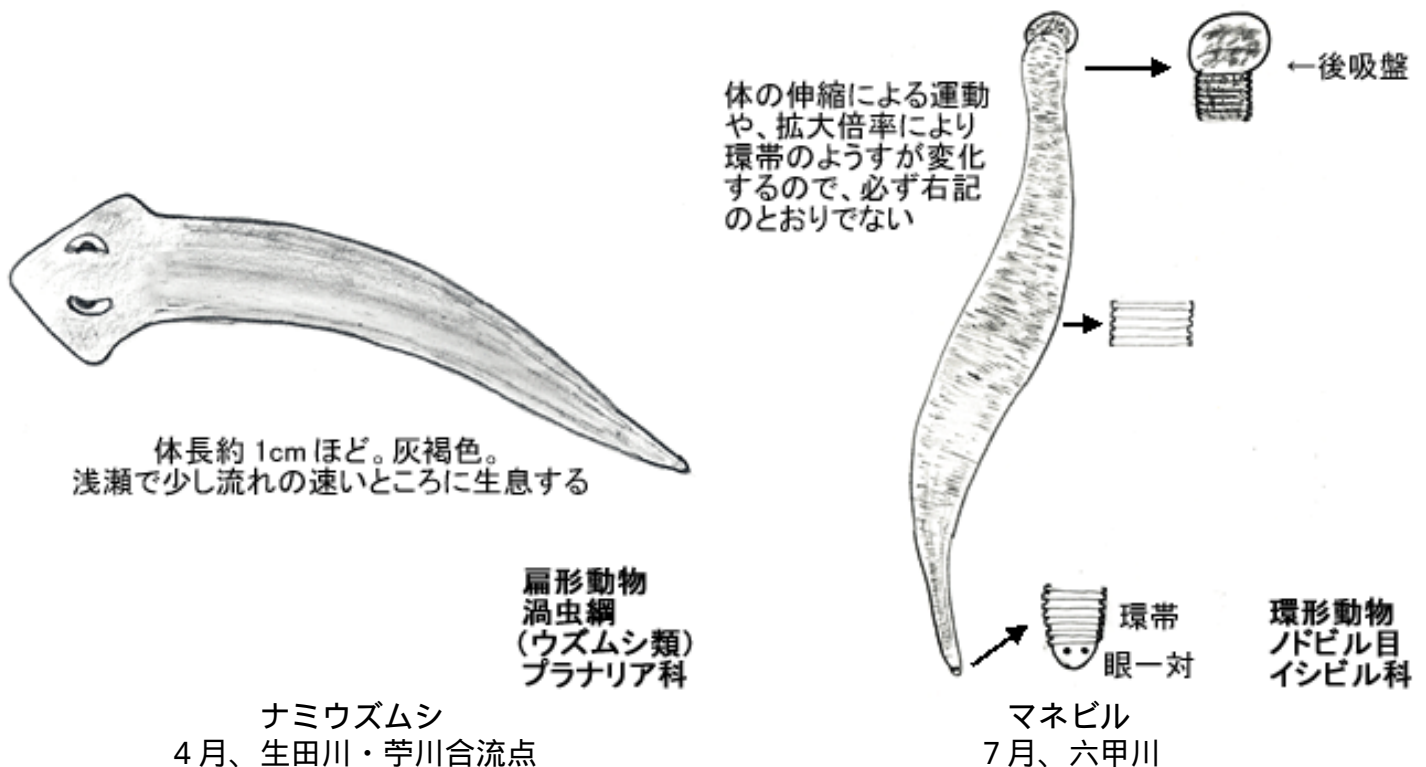


河川で見る生き物たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

流れのなかの小動物(1)

川底の土や砂、石ころ、それにひっかかった木の葉、朽木などにくっついったり、それらにまぎれ込んだりしている珪藻（けいそう）や緑藻（りょくそう）など小さな植物やゾウリムシやワムシなど小さな動物 - これらは顕微鏡で見える世界 - ひっくるめてミクロの世界に生きる生物 - を食べて暮らしている2、3の小動物を紹介します。



■ ナミウズムシ

体は左右対称で、節も骨もなく筋肉層でできた扁形（へんけい）動物のなかまです。大きさは1cmあまり、夏のあいだは分裂法でなかまをふやし、ちぎれても再生するなど困難にめげずに耐久力があります。

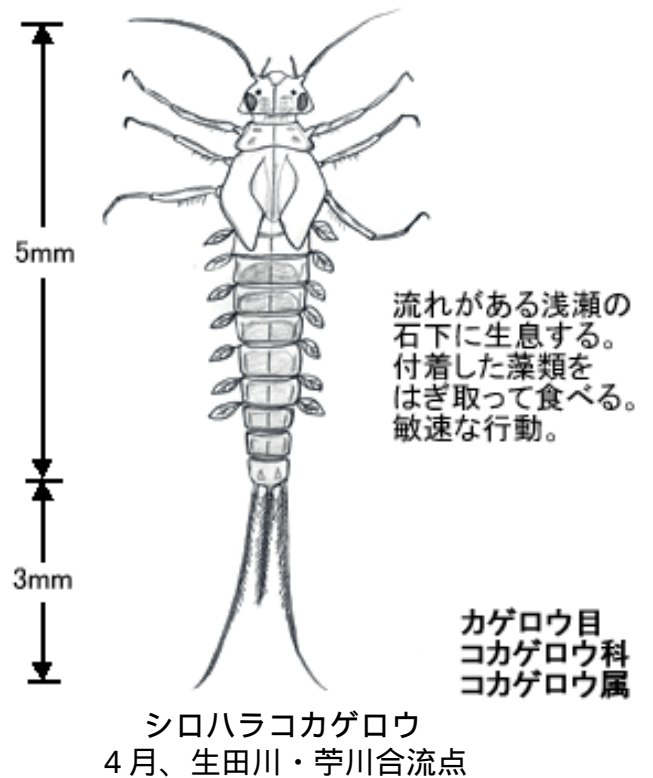
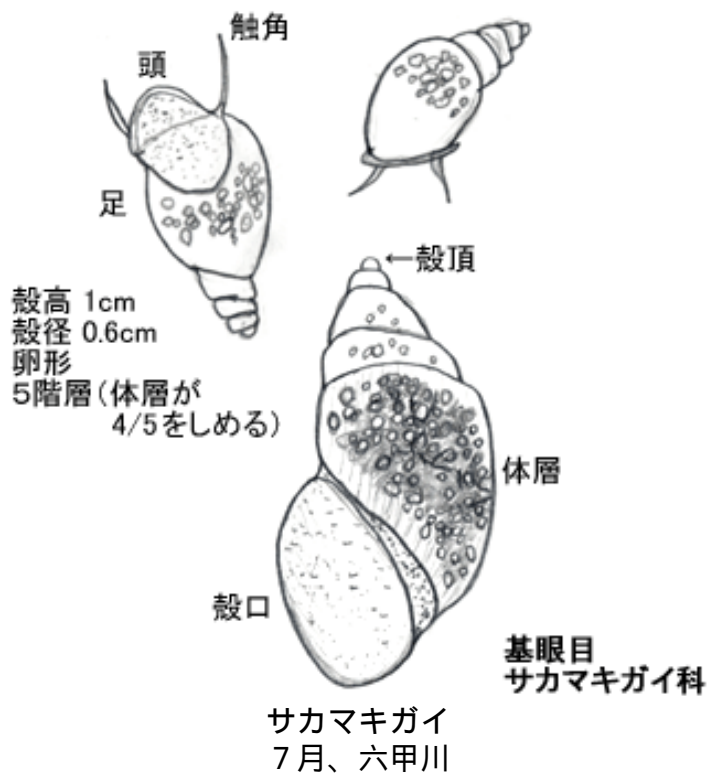
ふつう、ウズムシとかプラナリアと呼んでいます。見つかったら持ち帰り、再生実験してみよう。

■ マネビル

体は多くの節（体節）からでき、ミミズ、ゴカイ、ヒルなどのなかまをまとめて環形（かんけい）動物といいます。

体の両端には吸盤（きゅうばん）があり、ミミズなどを餌にするそうです。運動により体の形が変わるので、いつもこの図のとおりではありません。

背中に2本の縦線が走っているのはシマイビルといいます。どちらもイシビル科に属します。人の血を吸うのは、沼・水田にいるチスイビルや山にいるヤマビルです。



■サカマキガイ

体に背骨のない無脊椎（むせきつい）動物のイカ、タコ、カイなどの軟体（なんたい）動物のうちの巻貝のなかまです。

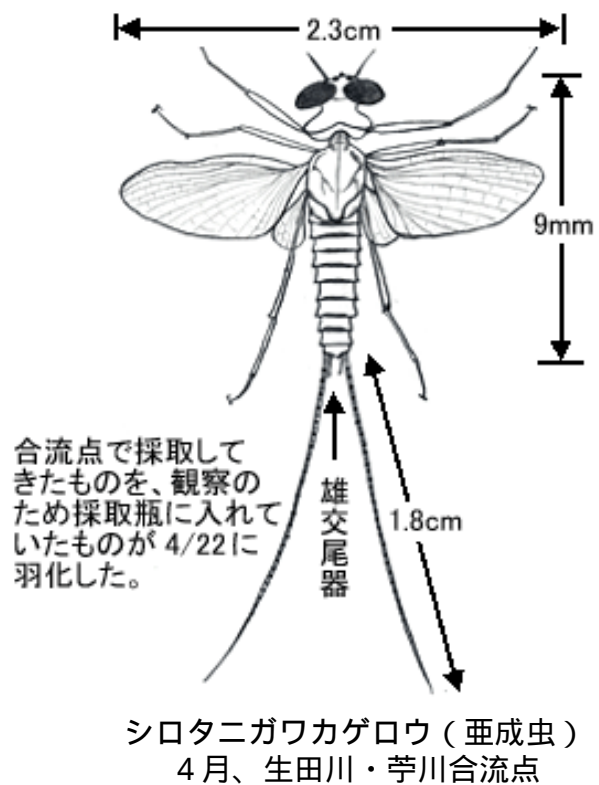
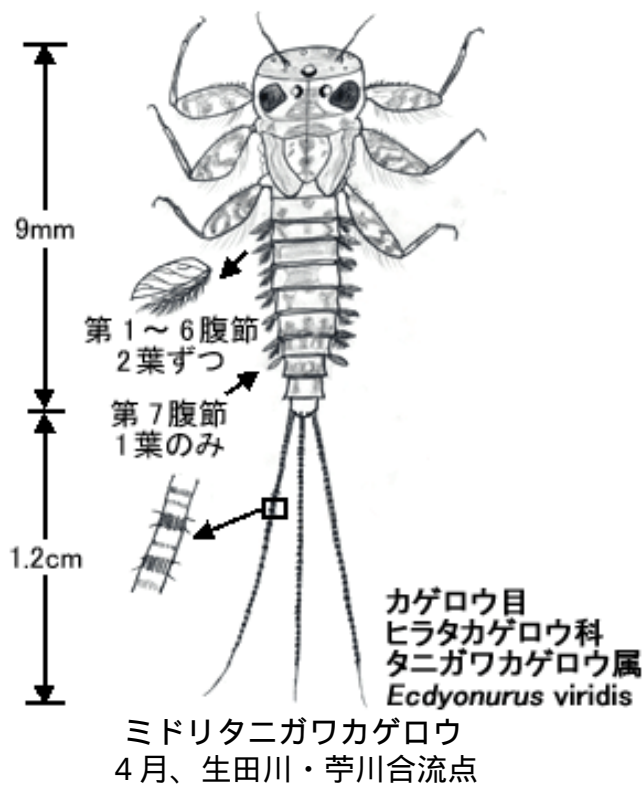
殻のてっぺんを上にとすると殻の口は左を向きますのでサカマキガイといい、巻貝の多くは右を向きます。同じような大きさで右向きのはヒメモノアラガイで、やはり川でも見つかります。

いずれも汚れた水に住みますので、水質を調べる時の指標（しひょう）生物のひとつとして扱います。

■シロハラコカゲロウ

節足（せつそく）動物、昆虫綱（こう）のカゲロウ目（もく）に属し、命はかないものの、代名詞のようになっているカゲロウのなかまのひとつ、兵庫県下には74種類も知られています。

幼虫の腹部は7節で、うち胸に近い方から7節目までに葉っぱの形をしたえらをつけ、水中で呼吸します。えさは石にくっついた珪藻（けいそう）のなかまです。尾は3本ありますが、真ん中の1本は短い。脚（あし）のつめは1本で、他の水生昆虫が2本あるので、その違いがはっきりしています。



■ タニガワカゲロウ（幼虫）

ほかのカゲロウの幼虫とちがって、頭でっかちなのが特徴です。3本の尾は同じ長さで、脚の表はまだらのもよう、そして葉の形をしたのと枝状をしたえらがセットになっているのもよい目印になります。

ながれのややゆるいところで、下流から上流へと広い範囲に住んでいます。

■ タニガワカゲロウ（成虫）

幼虫は長いあいだ水中の生活をしますが、水辺にあがって羽化（うか）すると餌もとらず、やがて交尾、産卵すると、3、4日で短い一生を終えます。

幼虫の脚はつめが1本ですが成虫では2ヶあります。翅を見てください。まえのはねは大きくて立派ですが、後ろのはねは小さくて申しわけ程度についています。



写真 5 4 8、チラカゲロウ
5 月、住吉川



写真 5 4 9、エルモンヒラタカゲロウ
5 月、住吉川

■チラカゲロウ

さきのコカゲロウにごく近いなかまで、なかなかスマートな体つきです（写真 5 4 8）。

写真では分かりにくいですが、前脚には長い毛が前方に向かってたくさん生えていますので区別できます。

■エルモンヒラタカゲロウ

尾の 2 本、よく目立つ葉っぱ状のえらには赤っぽい斑点がたくさんあるのでほかのと区別しやすいです（写真 5 4 9）。



写真 5 5 0、フタスジモンカゲロウ（幼虫）
6月、住吉川

写真 5 5 1、フタスジモンカゲロウ
6月、生田川

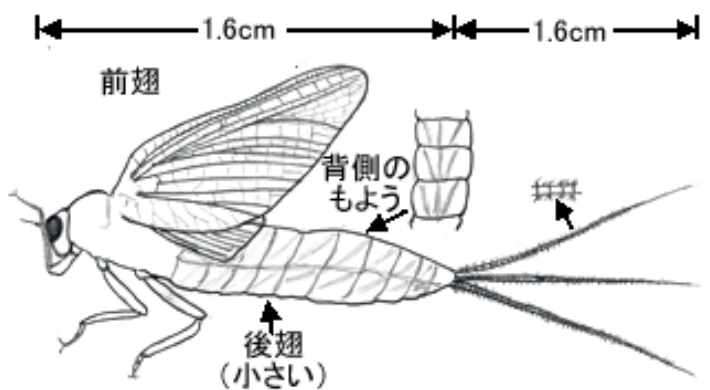
■フタスジモンカゲロウ（幼虫）

カゲロウのなかまの幼虫では体の大きいほうで 2 c m ほどになります（写真 5 5 0）。触覚、脚、尾などにも毛が多く、二又したえらは小枝状です。

■フタスジモンカゲロウ（成虫）

カゲロウの羽化は5月を前後しますので、英名は May Fly です（写真 5 5 1）。私はまだ飛んでいるところを見ていませんが、群れて飛んでいるときは視界をさえぎるほどといいます。

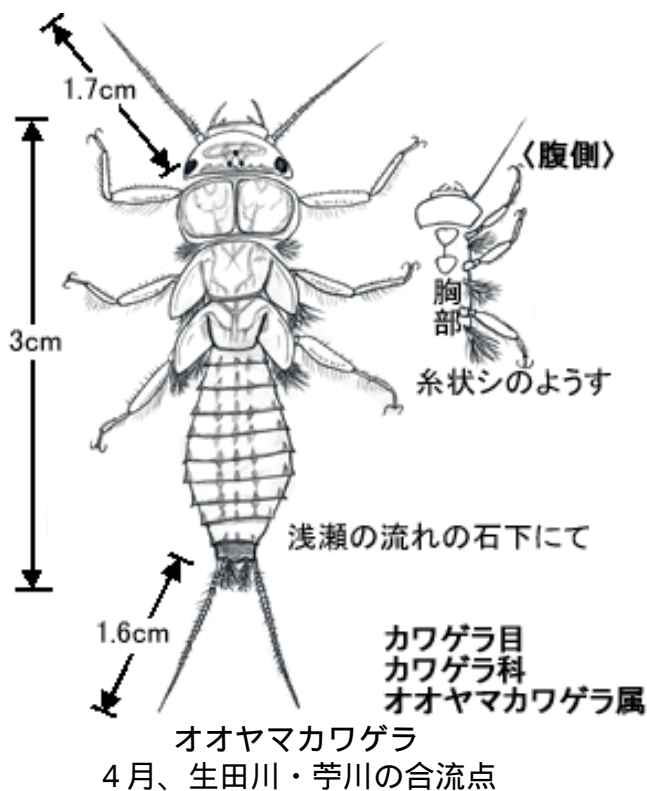
谷川の魚を釣る擬餌（えさに見せかけた仕掛け）は、この成虫の姿をヒントに作られています。（May Fly は 5 月の虫）



浅瀬水際の石に休止中

モンカゲロウ科

フタスジモンカゲロウ
6月、生田川・芋川合流点



オオヤマカワゲラ
4月、生田川・芋川の合流点

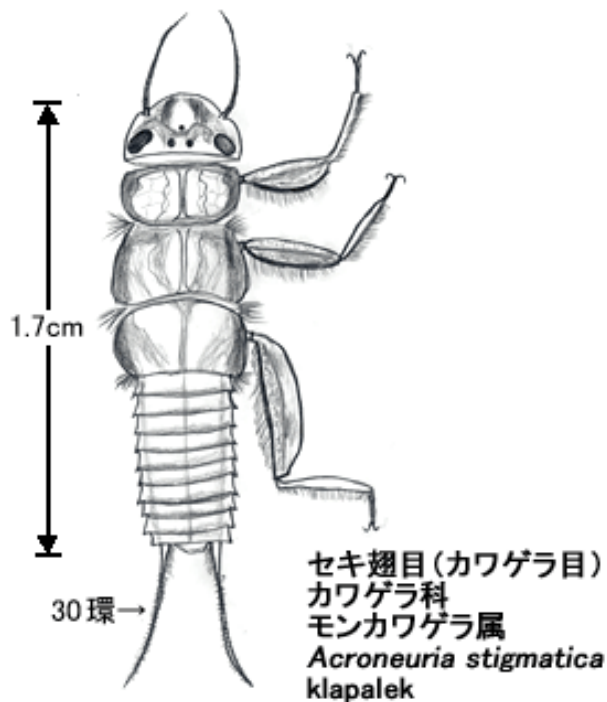


写真 5 5 2、オオヤマカワゲラ（幼虫）
4月、生田川

■オオヤマカワゲラ

水生昆虫のなかでは、ヘビトンボのなかまについて大型で 3 c m ほどにもなりますから迫力があります（写真 5 5 2）。胸の 3 対と腹端の尾の間に糸状のえらがあります。

兵庫県の主な河川からは 1 2 3 種類も発見されているとても大きなグループのひとつです。カワゲラのなかまは翅のある昆虫では最も原始的で、生きた化石昆虫の感じです。



モンカワゲラ
2月、生田川・苧川の合流点



写真 5 5 3、モンカワゲラ
2月、生田川

■ モンカワゲラ

カゲロウのなかまによく似ていますが、脚のつめは2本に分かれていて、1本しかないカゲロウと大きく異なります(写真 5 5 3)。また、尾は必ず2本です。ただし、カゲロウの多くは3本ですが、例外としてヒラタカゲロウのように2本のこともあるので注意が必要です。その他、えらの形、つく場所なども違いますからよく調べましょう。

さきのオオヤマカワゲラとの違いが分かりますか？モンカワゲラには尾のあいだにオオヤマカワゲラのようなえらがありません。

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)